

2020年10月5日 全5頁

新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（10/5号）

個社データ・業界統計・POS データで足元の消費動向を先取り¹

経済調査部 エコノミスト 山口 茜
研究員 和田 恵

[要約]

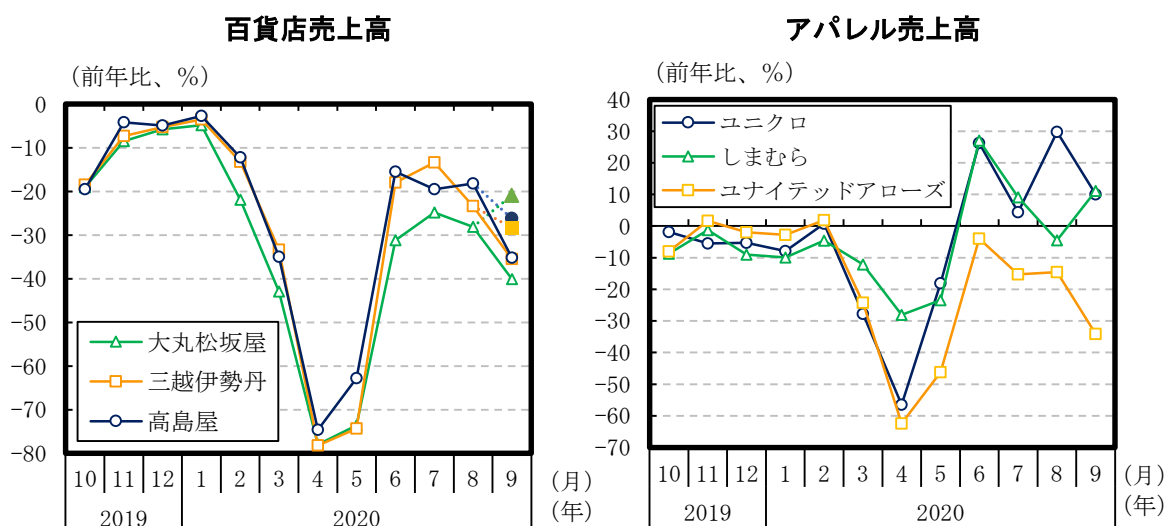
- 9月の消費は8月と概ね同水準だったと見込まれる。財消費が小幅に減少した一方、サービス消費は小幅に増加したとみられる。財に関して、9月のスーパーやホームセンター、家電量販店の売上は8月から減少し、百貨店は概ね8月並みであった。他方、サービスに関しては「Go To トラベルキャンペーン」の影響で旅行関係は持ち直した一方、外食の回復は頭打ちしたとみられる。
- 【小売関連】9月の大手百貨店の売上減少率は、前年の消費増税前の駆け込み需要の影響を除けば概ね8月並みであった。また、9月のスーパーの売上は前月比▲2%程度、ホームセンターは同▲5%程度、家電量販店は同▲10%程度といずれも8月から減少した。家電量販店では8月は猛暑によりエアコンの売上が好調であったが、9月に入りその動きが一服したことが減少に寄与した。
- 【サービス関連】9月の新幹線輸送量は前年比6割減程度と8月からマイナス幅が縮小した。旅客機輸送量も同様に前年比マイナス幅の縮小が見込まれる。

¹ 本稿は、速報性の高い個社データ・業界統計・POS データを基に、足元の消費動向を確認する定期レポートである（2020年4月初めから公表開始）。

<小売関連>

- ◆【百貨店】大手3社の9月の既存店売上高は前年比4割減程度。消費増税前の2019年9月の駆け込み需要の影響を除くために前々年比で見ると減少率は概ね8月並み。
- ◆【アパレル】9月既存店売上高の前年比伸び率は、しまむらとユニクロは前年比1割増程度、ユナイテッドアローズは秋冬商品の販売が低調で同3割減程度。

図表1：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。

色付きのマーカーは前々年比（三越伊勢丹と高島屋の前々年比は大和総研による試算値）。

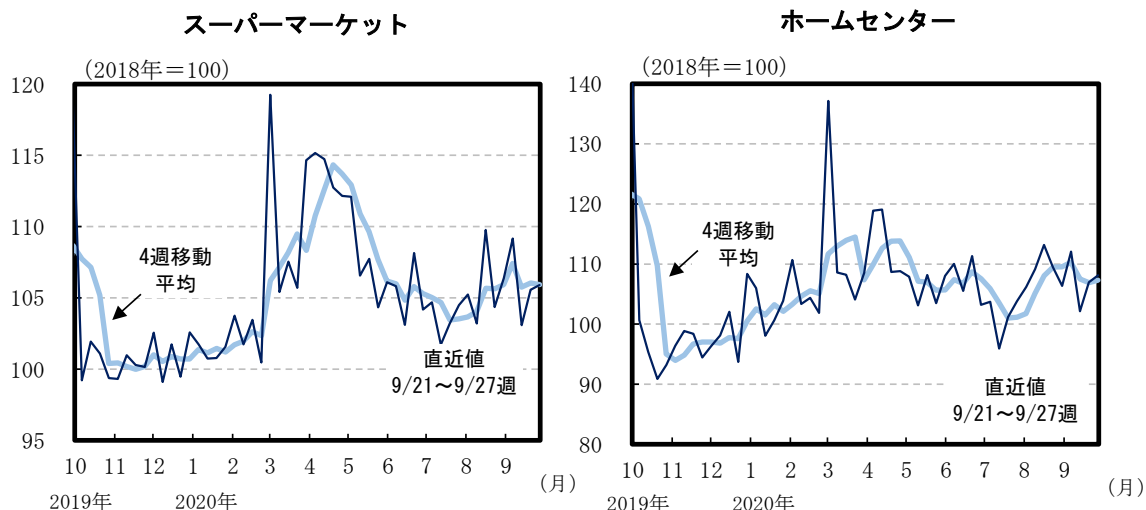
(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユナイテッドアローズはネット通販を含む数値。

しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値。

(出所) 各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパー】9月の売上は前月比▲2%程度（大和総研による季節調整値）。主力の食品売上も小幅に減少（同▲2%程度）。
- ◆【ホームセンター】9月の売上は前月比▲5%程度（大和総研による季節調整値）。雑貨やヘルスケアの売上が減少。

図表2：スーパーマーケット・ホームセンターの売上高

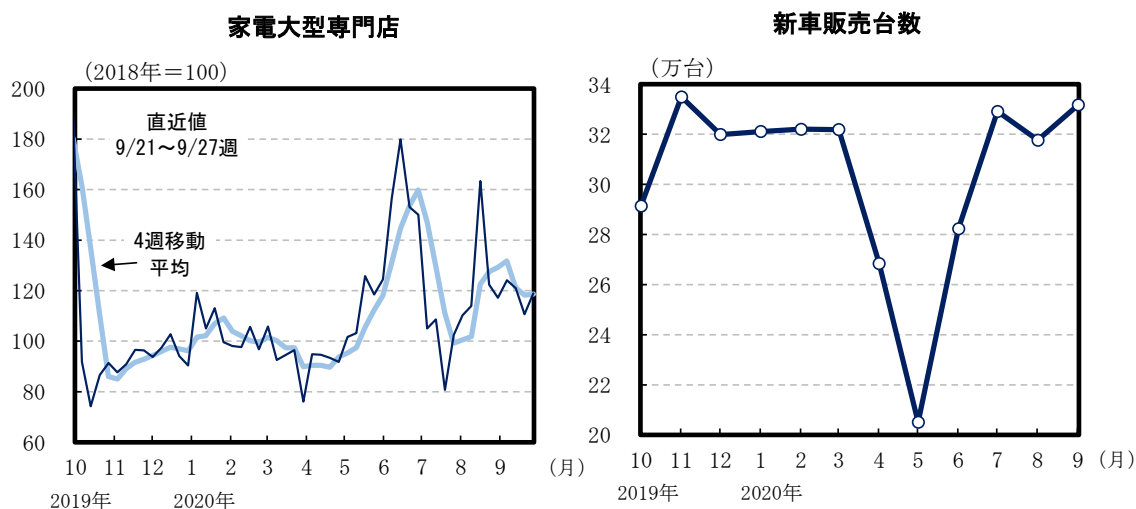


(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

- ◆【家電】9月の大手家電量販店の売上は前月比▲10%程度（大和総研による季節調整値）。8月に猛暑効果で好調であったエアコンの売上の一服が減少に寄与。
- ◆【自動車】9月の新車販売台数は8月から1.4万台増加（大和総研による季節調整値）。

図表3：家電・自動車の売上高



(注1) 家電大型専門店：METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

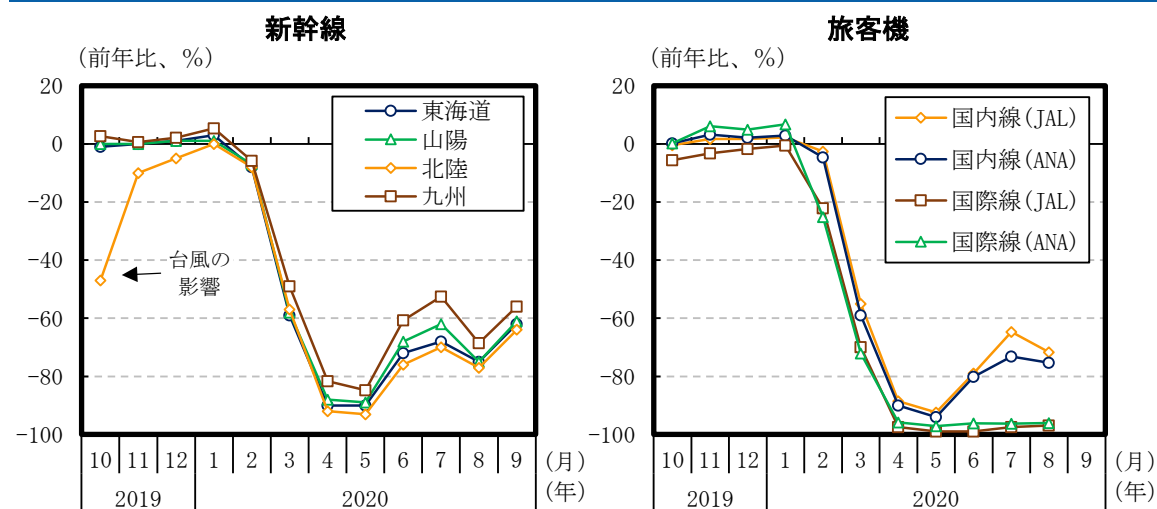
(注2) 新車販売台数：月次データ。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計より大和総研作成

<サービス関連>

- ◆【新幹線】9月の輸送量は前年比6割減程度と8月（同7~8割減程度）からマイナス幅が縮小。
- ◆【旅客機】ANA、JAL両グループの8月の輸送量は、国内線で前年比7~8割減程度、国際線で同95%減程度。JCB消費NOW等のデータに基づく、9月は国内線で前年比のマイナス幅が小幅に縮小した一方、国際線は概ね8月並みだったと推測。なお、10月は国内線の約3~5割、国際線の約9割が運休予定。

図表4：新幹線・旅客機の利用状況



(注1) 新幹線の9月分は、東海道が23日、九州が21日、その他は22日まで。

(注2) JAL・ANAのデータはグループ会社を含む数値。

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

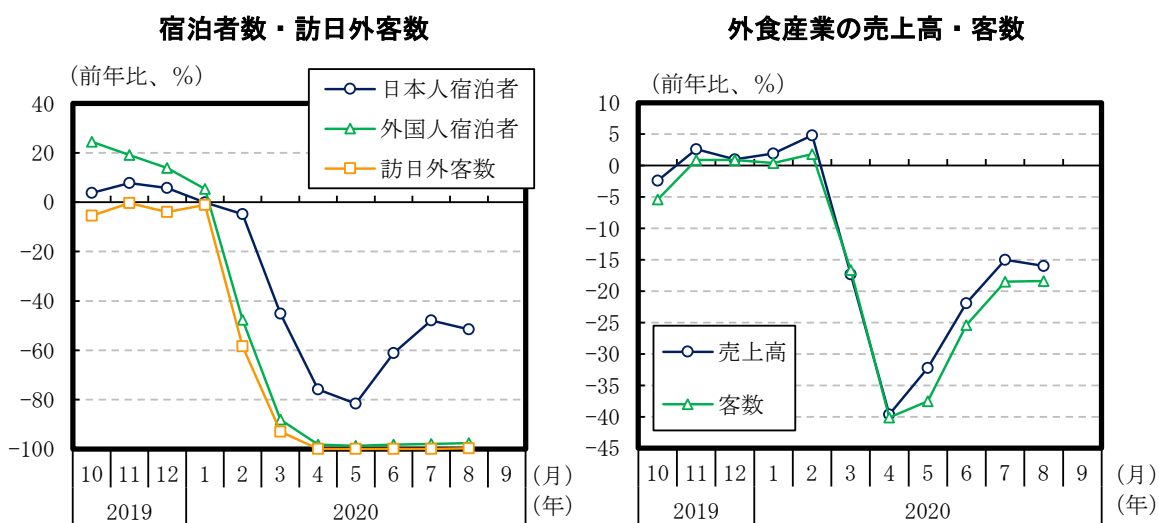
- ◆【宿泊】8月の外国人宿泊者数（宿泊日数ベース）は、7月と同様にほぼゼロで推移。引き続き入国制限を行っていることから、9月も同様の結果を見込む。

8月の日本人宿泊者数は前年比5割減程度と7月から横ばい。

JCB消費NOW等のデータに基づくと、「Go To トラベルキャンペーン」の影響で9月は前年比マイナス幅が小幅に縮小したと推測。

- ◆【外食】8月上伸び率は前年比15%減程度と7月から変わらず回復が頭打ち。自治体による酒を提供する業態への営業時間短縮要請や夏休み期間の短縮等がマイナス要因。JCB消費NOW等のデータに基づくと、9月は8月と概ね同程度と見込む。

図表5：宿泊者数・訪日外客数／外食産業の売上高・客数

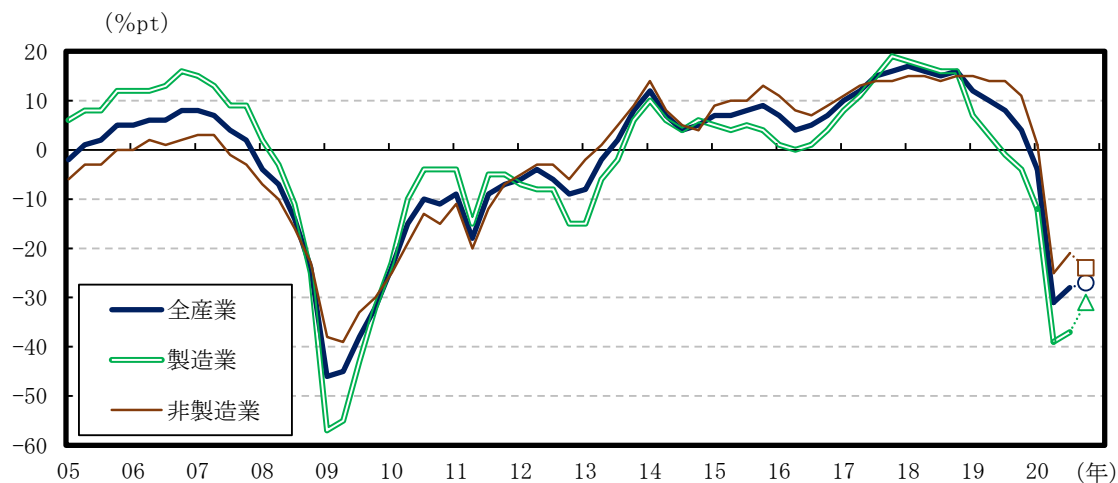


(注) 宿泊者は宿泊日数ベース。

(出所) 観光庁、日本政府観光局（JNTO）、一般社団法人日本フードサービス協会統計より大和総研作成

<参考：日銀短観²>

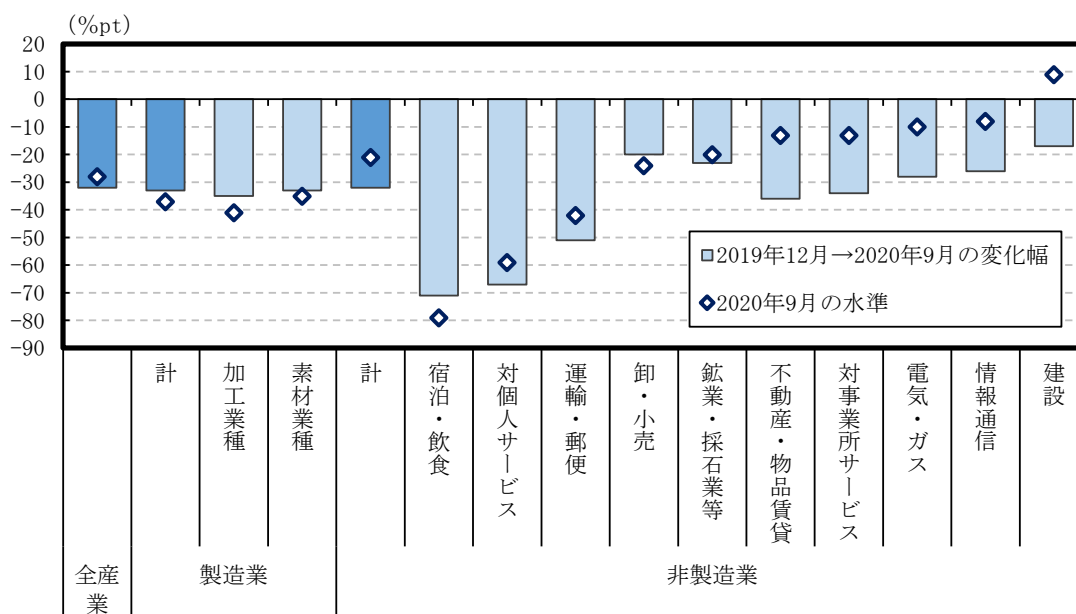
図表 6-1：業況判断 DI の推移



(注) 全規模計。白抜きは業況判断DI (先行き) の数値。

(出所) 日本銀行統計より大和総研作成

図表 6-2：業況判断 DI のコロナショック前との比較



(注) 全規模計。

(出所) 日本銀行統計より大和総研作成

² 詳しくは、山口茜「[2020年9月日銀短観](#)」(2020年10月1日、大和総研レポート)を参照。